



シリーズ! 活躍する2018年度日本ITU協会賞奨励賞受賞者 その8

メロディ・インターナショナル株式会社

support@melody.international
<https://melody.international/>



安心安全な出産を望む全ての妊産婦と医師、助産師の健康管理コミュニケーションプラットフォームとクラウド型胎児心拍計・子宮収縮計の開発・導入等、途上国市場で、遠隔医療の発展を進めている。ICTを活用したビジネスに今後一層の展開が期待できる。

世界中のお母さんに「安心・安全」な出産を届けるために

“Melody i”という、産婦人科医と妊婦さんをつなぐコミュニケーションプラットフォームを構築するに当たり、一番のハードルは要となる医療機器の開発と認可でした。既存の医療機器メーカーには、小型でワイヤレス・廉価のものを依頼しても引き受けてもらえず、結局は自分たちの力で開発することとなりました。ここで大きく助けていただいたのが、香川大学の原量宏先生と竹内康人先生です。1970年代に世界初の胎児モニターを発明した功績のあるお二方の力を借りて、回路設計から製品化まで3年かけて成し遂げました。その際、医療機器であることから、とても厳しい薬事認証の壁があり、多くの専門家から不可能だと言われ続けました。いろいろな方の協力を得つつ、優秀なスタッフと一丸となってクリアしたときは、本当に大きな喜びでした。また、機器の性能評価に関しては、プロトタイプ段階からタイのチェンマイ大学病院の医師らに根気よく付き合っていたいただき、何百にも及ぶ改善項目を一つひとつ潰していき、最終的に発展途上国の医療現場ニーズに合った製品・サービスが出来上がりました。そしてチェンマイ大学が、本サービスによって、タイ首相省から「ベスト・パブリックサー

ビス・アワード2017」を受賞したときには、共に喜びを分かち合いました。そして何よりうれしかったのは、多くのチェンマイ農村地域の妊婦さんが、私たちのサービスを使うことで、母子の問題をいち早く発見できて、早期搬送を実施することで無事に元気な赤ちゃんが産まれたという成果を報告いただいたことです。

今後は、より広く世界にサービスを届けられるよう、海外での医療機器認証に挑戦するとともに、量産化と廉価モデルの開発を進め、発展途上国が自ら導入できる機器とサービスにしていきたいと思います。

医療サービスの領域は、様々な規制があります。けれども、規制は人々が幸せに暮らすために考えられたものと捉え、世界の人々がより幸せになるためなら、乗り越えていけるものなのです。この度は「奨励賞」ということで、多くの功績を積み重ねてきた先達の背中を追いかけろとの激励であると思います。まだまだ道半ばですが、日本発のICTを使った周産期医療が、世界のお母さんと胎児を救う世の中が来るように邁進してまいります。



やまだ とおる
山田 徹

NEC デジタルトラスト推進本部 マネージャー 兼
技術イノベーション戦略本部 エキスパート
t-yamada@ap.jp.nec.com
<http://www.nec.com>



ITU-T SG20等の場でスマートシティ分野のユースケースの入力により標準化に寄与。ASTAPにおいては2017年8月よりEG IOT議長の役職に就任し、今後ますますの標準化活動への貢献が期待される。

ITU-T SG20におけるIoTとスマートシティの標準化

この度は、日本ITU協会賞奨励賞を頂き、ありがとうございます。尊敬している社内外の先輩方の多くがこの賞を受賞していますので、同じ賞を頂けたことは大変光栄であり、今後の活動への励みになります。日本ITU協会並びに関係者の皆様に改めまして御礼申し上げます。

2015年にITU-TにIoTとスマートシティを研究対象としたStudy Group 20 (SG20) が発足しました。発足以来、私はSG20会合に参加し、いくつかのWork Itemでエディタを担当するとともに、提案活動を続けてきました。

一般に、スマートシティは国や地方自治体のプロジェクトとして推進されています。そのため、ITU-T SG20には、様々な国のスマートシティ担当省庁のスタッフが参加しています。先進国だけでなく、アフリカ、南米、ASEAN諸国等、いわゆる新興国からの参加や提案も多く見られます。これらの国々のスマートシティ担当者と直接議論できることがITU-T SG20の大きな特徴となっています。

ITU-T SG20では、概要、フレームワーク、要求条件といった比較的抽象度の高い勧告が作られています。これらは、機器と機器とがコミュニケーションするための技術的な国際標準ではなく、人々の認識を共通化（標準化）して人と人とのコミュニケーションを促す共通言語のような役割を果たすものと理解しています。スマートシティの国際標準という共通言語を介して、各国・各都市のスマートシティ担当者で議論し、彼らが求めるスマートシティソリューションを提案していくという活動が、ITU-T SG20に参加する意義の一つであると考えています。

2019年4月に、ITU-T SG20副議長に就任しました。皆様からご助言を賜りながらこの任に当たりたいと思います。IoT及びスマートシティの標準化を通じて日本のプレゼンスを高めるとともに、本分野の普及と発展に貢献したいと考えております。